

R 6 年 9 月 放 送 分
「 自 己 紹 介 ・ 東 北 防 衛 局 に つ い て 」
（ 日 本 の 防 衛 Q & A ）
（ 自 衛 隊 百 科 ）

R6.8.23 収 録

【 パーソナリティー 】

本日は、7月19日付けで東北防衛局長に着任されました池松英^{いけまつひで}
^{ひろ}浩局長にお話しを伺います。池松局長、よろしくお願ひします。

【 局 長 】

よろしくお願ひします。

【 パーソナリティー 】

まずは、池松局長のご経歴を伺いたいと思ひます。

【 局 長 】

はい。私は、平成4年、西暦1992年に当時の防衛庁、今の防衛省に就職し33年目になります。そのうち、5年間は海外で、また、8年間は霞ヶ関の他省庁で、勤務しました。防衛省では政策、装備、運用など色々な部署で勤務しました。

地方勤務は今回が初めてです。地元の方々の声を聞き、それらをしっかりと防衛行政に反映させていきたいと思ひています。

【 パーソナリティー 】

今までの勤務の中で印象に残っているお仕事はありますか。

【 局 長 】

印象に残る仕事は色々とありましたが、一つあげると、2016年から2020年の4年間、内閣官房と防衛省でそれぞれ2年間ずつ、頻繁に緊急参集しなければいけない仕事をしたことは、印象に

残っています。

内閣官房では、政府全体の危機管理をコントロールする事態室というところで参事官をしていました。防衛省では、自衛隊の運用をコントロールする統合幕僚監部で首席参事官をしていました。参事官というのは課長級のポストです。

この4年間は、24時間365日、北朝鮮のミサイル発射、日本国内での大規模地震など、日本の安全保障や国民の安全・安心に関わる事態が発生したら、ただちに官邸や防衛省に向かっていました。そのために都心の危機管理宿舎に単身赴任し、電動自転車を貸与されていました。

危機が発生した際に一刻も早く参集し、対応することはとても重要でした。携帯電話は常に自分の半径1メートル以内にありました。夜中や早朝、食事中に緊急参集したことも頻繁にありました。食堂でカツカレーを注文して出てきた瞬間に緊急参集の連絡が入り、一口も食べられなかった後の数ヶ月間は、よくカツカレーが食べたくなりました。官邸では、入口から会議が行われる危機管理センターまで走っていました。スーツに着替えながら会議を進行したこともありました。

大変でしたが、今となってはいい経験です。色々なことを学びましたし、また、国民の命や生活を守るというやりがいも感じていました。

【パーソナリティー】

「5年間は海外」とのことですが、どちらで勤務されていたんでしょうか。

【局長】

1996年からの2年間は、アメリカのハーバード大学の大学院に留学していました。ボストンにあります。

残りの3年間は、2009年から、オーストラリアの日本大使館で勤務しました。オーストラリアの首都はキャンベラというところで、そこで勤務していました。

【パーソナリティー】

「8年間は霞ヶ関の他省庁」とのことですが、どちらで勤務されていたんでしょうか。

【局長】

2年間はさきほどお話ししたとおり内閣官房に勤務していました。

2000年から2002年までは、課長補佐として消防庁に勤務していました。総務省の一部ですね。ガソリンスタンドなど、燃えやすいものを扱う場所を消防法に基づいて規制する仕事をしていました。

2020年からの2年間は、外務省に出向して、軍縮不拡散・科学部担当の審議官をしていました。ここでは、核軍縮に関する仕事が多かったです。日本には、核兵器のない世界の実現に向けてリーダーシップを発揮することが期待されますが、その実現は簡単ではないので。外交的側面から原子力の平和利用も担当しており、福島第一原発の^{アルプス}ALPS処理水の件にも関わっていました。

東北防衛局に来る前の2年間は内閣府の国際平和協力本部事務局というところで、次長として勤務していました。この事務局は、国際平和協力法、いわゆるPKO法に基づく日本の活動を所管するところです。ウクライナやガザの関連での人道支援物資の提供といった仕事に携わりました。また、南スーダンの国連PKOやシナイ半島で停戦監視活動を行っているMFOという国際機関への自衛官の派遣も、この事務局の仕事です。

【パーソナリティー】

国際的なお仕事を多くされてきたんですね。

この番組をお聞きの皆様は、ある程度、東北防衛局についてご存じかと思いますが、改めて、池松^{いけまつ}局長から東北防衛局の業務についてご紹介いただけますでしょうか。

【局長】

はい。東北防衛局は、全国に8つある地方防衛局の一つでありまして、東北6県を担当しております。

地方防衛局は、平成19年に、防衛行政全般の地方における拠点として新編されました。

東北防衛局の組織としては、局長の下に、総務部、企画部、調達部の3部と三沢防衛事務所及び郡山防衛事務所の2つの事務所が置かれ、定員は自衛官14名を含め226名となっています。

主な業務としては、自衛隊や米軍が使用する防衛施設の取得、管理、建設工事を行っています。

また、自衛隊や米軍の行為や防衛施設の設置・運用が、周辺地域に影響を及ぼす場合に、その影響を防止・緩和するための周辺対策事業を行っています。例えば、飛行場周辺では戦闘機等の航空機の離発着に伴って騒音が発生しますし、演習場では訓練の際に砲撃音の騒音が発生したりするほか、戦車などの大型車両の走行によっては演習場内の土地が荒れて、周辺地域へも影響がある場合があります。このような場合には、学校、病院、住宅などに対する防音工事や河川や道路の改修工事などの周辺対策事業を行っています。

【パーソナリティー】

防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策を行っているということなのですね。

【局長】

はい、そうです。周辺対策事業は、関係自治体に対する補助金、交付金という形で実施しており、関係自治体にご協力いただきながら進めています。

そのほか、地域に対する防衛政策についての情報の発信や、自衛隊の装備品の調達に関する業務も担当しています。

【パーソナリティー】

詳しく教えていただき、ありがとうございます。とても幅広い業

務をなさっているのがよく分かりました。

最後に、東北防衛局長としての抱負をお聞かせください。

【局長】

私としては、自治体・住民の方々をはじめとする地域の皆様と自衛隊・在日米軍との間の架け橋となることが、東北地方における防衛行政の拠点の長である私の役割であると思っています。

その役割を果たすために、地域の皆様の声に耳を傾け、それを防衛行政に反映させていきます。また、自衛隊・在日米軍や防衛施設について、地域の皆様に情報提供していきます。そして、これら双方向の取組を円滑に行うための基盤となる、地域の皆様や防衛省・自衛隊・在日米軍関係者との間の信頼関係の構築に平素から努めていきます。

防衛行政及び東北防衛局に対する、皆様方のこれまでのご支援とご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

【パーソナリティー】

本日は、7月19日で新たに着任された池松^{いけまつ}局長にお話をお聞きしました。ありがとうございました。

【局長】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。